教育センターだより　第92号

令和元年６月３日発行
佐野市教育センター
佐野市上羽田町 1134 番地１
電話(２０)３１０８
(２０)３０４８(相談専用)

「表現する力」を鍛える

佐野市教育委員会　教育長　　岩上　日出男

「学校の現状」

市内の小中学校の学校研究課題を読ませて頂くと、多くの学校では子供たちの「表現する力」の育成に重きを置いています。

難しく言えば、概念や根拠、論理を自分の言葉で、しっかり述べる力を育成しているのではないかと思います。それは、本市の課題でもあります。

各学校においては、「正しい語義の理解」のために、「辞書引き学習」をしている例が多く見られます。自分で意味が分かっていると思っている語や言い回しについても、文章の中で大事な位置を占めていると思ったら、確認のために辞書を引くという習慣が大切だからです。また、「根拠を明確にする」ために小学校低学年から自分の意見を言う時には、まず結論を述べ、続いて必ず「そのわけは・・」と言う形で根拠を述べさせる指導をしている学校も多く見られます。

こうした習慣が身に付くと、学級の話合いや自分の理解したことを言葉にして練り合う学習でも、あるいは自らの体験や考えを書き表す時にも生きてくることでしょう。

「5W1H へのこだわり」

最近、子供や若者の間で、単純化した表現の言葉がよく用いられています。「やばっ」とか、「超～・・」等はまだしも SNS 上ではスタンプなるものも出始め、もはや言葉を省略し単純表現の多様化がどんどん進んでしまっています。こうした単純化された言葉を用いることになると、広く確かな意味を表現することは到底不可能になってしまいます。

私は、読み取りや聞き取り、書き表しや言い表しのいずれの場合にも結論や主張の基礎に、５W1H の文脈理解があると良いのではないかと考えています。表現する力を鍛えるためには、常に５W1H にこだわり、それを読み取っていこうという努力が必要ですし、繰り返し訓練することが不可欠です。

When	いつ	Where	どこで
Who	だれが	What	何を
Why	なぜ	How	どのように

具体的には、絵本を見せて５W1H を分析的に読み取る方法を取り入れている学校もあるので、ご紹介しましょう。

① 絵本を見て、描かれている絵や掲げられている言葉を手掛かりとして、そこでの物語を時・場所・状況などを考えながら、また登場人物の様子や心情などに留意して、自分なりに読み取る。そして作者が工夫している点についても考えてみる。

② 絵本から読み取ったことを、根拠を明らかにしながら他の人に対して話す。

③ 絵本から読み取ったことを、文章の形で表現する。

といった活動です。さらには、こうした活動を基盤にして、作文の場合でも論理的な骨格のはっきりした文章が書けるように指導することができます。

この５W1H の捉え方は、確かな根拠からの推測も含め、広い意味空間の中での理解や表現となる基礎的な部分ではないでしょうか。

言葉本来の「表現力」を育むためには、こうした地道な取り組みが繰り返しなされることが肝要であろうと考えます。

〈参考文献〉　梶田　叡一著　文溪堂　２０１７年
「教師力の再興－使命感と指導力を」